平成 21 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	**内因性リガンドによって誘導される「自然炎症」の分子基盤とその破綻**
領域代表者名	**三宅　健介　（東京大学・医科学研究所・教授）**
研究期間	**平成２１年度～２５年度**

【科学研究費補助金審査部会における所見】

ハエからヒトまで保存されている病原体センサーが、非感染時においても自己内因性リガンドに応答し弱い炎症を誘導していることが明らかとなってきた。本研究領域では、これを「自然炎症」と定義し、この分子基盤を解明することを目的とする。自然免疫研究は格段の発展を遂げているが、これまでに領域代表者は当該分野に大いに貢献してきた。従来の自然免疫と内因性の病態を分子レベルで結びつけ、特に Toll 様受容体が内因性リガンドを認識することに着目した点において、新しい学術分野として興味深い提案となっている。領域組織は、領域代表者を中心に比較的若手の研究者を結集してよくまとまり、ショウジョウバエからヒトに至るあらゆる段階の研究者を加えていることからも有機的な研究が期待される構成となっている。新規リガンドの同定方法や、個々の計画研究の連携などに改善すべき点はみられるものの、本研究領域が提唱する概念は非常に独創的であり、得られる結果は基礎的な生命科学の発展のみならず、ヒトにおける病態の解明にも寄与することが期待される。